平成31年度日本地すべり学会賞受賞者紹介

【技術報告賞】木村　誇　氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所）

●受賞技術報告：赤石山地ドンドコ沢岩石なだれの発生に起因した地形変化の再検討，日本地すべり学会誌，第55巻1号，pp.42－52.

●著者：木村誇・山田隆二・苅谷愛彦・井上公夫

●受賞理由：

本技術報告は，航空レーザ測量による1mDEMを利用した詳細地形学図の判読と現地調査に基づき，ドンドコ沢岩石なだれの堆積域周辺における地形変化を再検討しており，主に以下の成果を報告しています。

①岩石なだれ発生以前の流下ルートと旧地形を推測し，それらによって，岩石なだれの層厚を推定した。

②花崗岩巨礫の計測によって，給源からの距離と巨礫サイズに相関が見られないこと，淘汰が生じていないこと等を明らかにした。

③堆積地形の判読結果と樹木化石の樹種組成や産状，さらには同地域の年代測定に関する先行研究より，かつての河道閉塞による堰止湖のあった期間を推定した。

④岩石なだれ発生後に，河川の転流が起こった可能性を指摘した。

以上より，本技術報告は航空レーザ測量データを用いた微地形判読によって，過去の大規模土砂移動現象とその後の地形変化のシナリオを明らかにしており，学術的にも技術的にも有意義な知見及び発展性を有しています。よって，本技術報告を技術報告賞に相応しいと評価いたしました。

●　略　歴　●

2011年　北海道大学大学院農学院
　　博士後期課程単位取得退学

2012年　独立行政法人
　　（現・国立研究開発法人）
　　土木研究所　専門研究員

2014年　公益社団法人地すべり学会
　　専門研究員
　　（山梨大学工学部　特別研究員）

2016年　国立研究開発法人防災科学技術研究所
　　特別研究員，現在に至る
　　博士（農学）

【技術報告賞】堀松　崇　氏（株式会社　興和）

●受賞技術報告：裏山雨量計プロジェクトによる住民避難の自主判断補助と住民の防災意識の変化，日本地すべり学会誌，第55巻6号，pp.311－320

●著者：堀松崇・福岡浩・須江敏・木村浩和・古川澄夫

●受賞理由：

近年，雨量観測網では把握できない局所的な豪雨による斜面崩壊の発生事例が度々報告されています。土砂災害警戒情報システムについても情報入手の方法が広く知れ渡っているとは言い難い状況にあります。本技術報告では，地域住民の避難行動支援を目的として集落裏山に雨量計を設置し，当該地区住民に「がけ崩れおっかない指数」をWeb配信する提案・試行がなされています。「裏山おっかない指数」とは，スネークライン上において，現状とクリティカルラインとの関係を量的に表す指数とされています。このシステムを試行した地域においてシステム導入半年後と1年半後にアンケートを実施した結果，地域住民の間で崖崩れおっかない指数および気象情報を参照する頻度が上昇し，防災意識の向上が認められるなど，有益な成果が得られています。このようなシステムは住民の安全な避難行動を支援する有用な方法論と考えられます。

以上より，本技術報告は豪雨時の土砂災害，とりわけ局所的豪雨による斜面災害発生危険度を集落単位の住民に周知し，自主的な避難行動を支援する方法論を提供しており，学術的技術的知見を社会に役立てる有意義な取り組みと考えられます。よって，本技術報告を技術報告賞に相応しいと評価いたしました。

●　略　歴　●

1987年　新潟大学理学部卒
　　同年　株式会社　興和
　　調査部　入社

1998年　財団法人　砂防・地すべり技術センター（派遣）

2000年　株式会社　興和　調査部

2014年　株式会社　興和　技術開発室
　　現在に至る
　　技術士（総合技術監理部門，
　　建設部門，応用理学部門）